

陸連時報 三

2017
平成29年

9

月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

専門委員長挨拶	198
第16回世界陸上競技選手権大会(2017/ロンドン)日本代表選手	201
第4回日中韓3カ国交流陸上競技大会報告(強化委員会強化育成部U20コーディネーター 大橋祐二)	202
第22回アジア陸上競技選手権大会報告(強化委員会コーディネーター 遠藤俊典)	204
第87回アジア陸上競技連盟カOUNCIL会議、第22回アジア陸上競技連盟総会報告(会長 横川浩)	206
2017年度主要競技会日程	207
2017年度JAAF公認ジュニアコーチ 兼 日本体育協会公認スポーツリーダー養成講習会	208
2017数字で見る陸上競技Vol.2 都道府県公認審判員数	209
大会観戦ガイド	210
陸協NEWS	212
事務局からのお知らせ	214

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

専門委員長挨拶

役員改選にあたって専門委員長の挨拶を掲載致します。

総務委員会、強化委員会、法制委員会、財務委員会、競技運営委員会、普及育成委員会、施設用器具委員会、科学委員会、医事委員会の9委員会を紹介致します。



総務企画委員会 尾縣 貢

今年度から国際委員会を総務委員会に吸収し、新たに総務企画委員会を設置しました。その役割は、1) 企画・総合調整に関すること、2) 関係団体に関すること の2つに大きく分けることができます。

それぞれのくくりの中での具体的なミッションをあげると以下の通りになります。

1) 企画・総合調整に関すること

- ①複数の委員会での連携が求められる課題について、本委員会が調整をしながら解決を図ること。
- ②他の専門委員会のいずれにも属さない諸課題について解決を図ること。女性役員登用の促進は、本委員会の課題として取り組んでいく予定です。
- ③JAAF2017ビジョンに関して具体的な施策を考案すること。中期(2028年)、長期(2040年)における陸上競技の本質的な活性化を念頭に置きながら、それぞれの年度で斬新かつ的確な事業を企画・実行していく必要があります。
- ④2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての諸課題に取り組むこと。選手強化、競技運営の大きな柱に関するもの他にも多くの課題が山積しており、委員会の枠を超えた取り組みが必須となります。

2) 関係団体に関すること

- ①加盟団体、協力団体及び日本パラ陸上競技連盟等との連携強化に関すること。陸上競技という大きな傘の下、それぞれの組織が基盤強化を図っていくことが望まれます。東京オリンピック後の陸上界全体のあるべき姿をもしっかりと描いた上で、協力体制を構築していきます。
- ②競技団体の枠を超えた連携促進に関すること。競技間のトランスファーの促進や競技団体のコラボによる新しい事業の企画なども真剣に考える時機にきていると言えます。総務企画委員会では、多くの方々の力を結集して、これらの課題に取り組んでまいりますので、ご協力のほどお願い申し上げます。



強化委員会 伊東 浩司

2016年11月、これまでの強化推進本部や将来構想ワーキングから提案された議論を反映した新しい強化組織を改編しました。新強化体制の特徴は、連盟主導の強化方法であります。従来のブロック制から種目制に移行し、強化

の枠組みを構築しました。強化の枠組みは①『トラック&フィールド/競歩』、②『長距離・マラソン』、③『強化育成』という3つの柱としました。そして、各種目にオリンピック強化コーチを配置し種目別に強化が展開されることになりました。

- ①ゴールドメダル・メダルターゲットを伊東が担当し、TOP8ターゲット、ワールドチャレンジを山崎一彦ディレクターが担当します。強化の階層を設定し、各種目に特化した強化を行います。
- ②河野匡ディレクターが担当し、メダル・TOP8ターゲットを設定しました。その中でも「マラソン強化戦略プロジェクト」を発足し、瀬古利彦氏をプロジェクトリーダーとして、メダル獲得に向けた重点的な強化を行うことになりました。
- ③麻場一徳ディレクターが担当し、2020年以降の強化を視野に入れながら、従来の機能を継承した組織となり、U20やダイヤモンドアスリートを中心としたプログラムを進めていきます。

本年は、世界選手権ロンドン大会が開催されます。この大会は2020年東京五輪をターゲットにした選手団の編成であります。さらに2018年にはアジア大会、2019年には世界選手権があります。また、2020年の前年にはワールドラグビーがあり、国民のスポーツに対する期待が大いに高まると思います。他競技団体や国の方向性が「選択と集中」を求めている時代になっており、トップ選手に特化した重点サポートを実施し、成果を出しているという事実は明らかです。陸上競技を考えた場合、残された時間は極めて少なく、現状の競技力を鑑み強化の枠組みを展開することとしました。陸上競技に関わる全ての方々のお力添えを頂きながら、2020年をむかえていきたいと考えております。



法制委員会 清水 真

今般、引き続き法制委員長を拝命いたしました。改めまして、よろしくお願い申し上げます。

私が日々接している会社法務の世界では、コンプライアンス(法令遵守)ということが厳しく求められる傾向が顕著にみられ、従前許容されてきた諸制度が許容されなくなるといことが多発しています。

昨今のスポーツ界を巡る状況をみますと、その世界の中だけのことを考えていけば済むというものではなく、一般の社会とのかかわりの中で物事を考えていかなければならない場

面が増加していることを感じます。特に、2020年には、東京オリンピックを控え、スポーツへの注目度も高まり、また、スポーツに対して、公的なお金による援助も増えることが見込まれる状況からしても、その傾向は強まっていくことが予想されます。

このような状況の下、陸上界においても、従前からの諸制度が社会一般の基準に照らして問題がないのかについて、随時検討していくことが求められているといえます。勿論、従来から行われている諸制度は、一定の背景をもって築き上げられたものであり、性急に見直しを行えばよいというものでもありませんので、法制委員会では、慎重に、必要な検討を行っていきたくと考えております。

これにより、競技者の方々が、安全にかつ安心して競技に取り組める環境を整備すること、陸上競技を観戦されるファンの方々を含め、広く国民の皆様に、陸上競技に良いイメージを持っていただけること、本連盟をはじめとする関係諸団体が信頼を得られることを実現していきたいと思っておりますので、何卒、関係者の皆様の御支援・御協力を賜れば幸いです。



財務委員会 小手川 強二

財務委員長として二期目をむかえることとなりました。

委員会としては、これまで通り「財政基盤の安定」「公益財団法人としての資金の透明化」「加盟団体への支援」の重要施策をおすすめてまいります。

陸上競技は、オリンピックの華と呼ばれるように、国民の多くから期待と注目を浴びる競技です。3年後には東京でオリンピック、パラリンピックが開催されます。すでに3年後を見据えた様々な対策が検討、実施されております。財務委員会として、そのような方向に対して強力に支援できるよう、財政基盤をより強固なものにしたいと考えます。

特に、選手強化については、限られた予算ではありますが、最優先で取り組んでまいりたいと思います。

また、陸上競技の関係者の皆様の信用と信頼および協力を得るため、財務委員会としても情報の発信を的確に行う必要があると考えます。

何分不慣れな委員長ですが、皆様のご支援、ご協力のもと真摯に取り組んでまいりたいと思います。これからもよろしくお願いたします。



競技運営委員会 鈴木 一弘

この度、競技運営委員長として二期目を迎えることとなった。本委員会は競技会のシーズンと合わせるべく4月から新メンバーでスタートしている。今期は来る2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会に向けて本格的

に競技役員編成と研修を開始する。それに向けて委員会内の体制も次世代に目を向けて若返りを図った。さらに陸連の専門委員会の改組を受けて他委員会から移籍した委員も含め

て50名弱の人員を抱えることとなった。

委員会内の体制として今年から競技部・審判部の部を廃し、課題ごとにプロジェクトチームを作り、月1回の全体会議の他はPTの会議で課題検討をしていくこととした。プロジェクトチームとしては①競技規則・ルールブック編集②審判ハンドブック編集③広告展示物規程④競技会カレンダー・記録⑤審判員研修⑥表彰プロトコルの6部門を置いた。⑥の表彰プロトコルPTは総務委員会、国際委員会からの移籍であり、基本的に競技会時のみの活動なのでPTとしての活動は基本的になく、委員会内の情報共有・意見交換だけとした。

さて、2020年に向けてオールジャパン体制で臨むという基本姿勢の下、各加盟団体から推薦を受けたメンバーの研修を始めることになるが、これから精査を受けて当日、競技役員となる者が決まっていく（推薦された者が全員なれるわけではない）。国立競技場という建物のレガシーは現時点では困難との予想の下、人材としてのレガシーを残そうというのが陸連としての方針である。1964年、1991年、2007年のレガシーを受け継いで2020年以降にどのようなレガシーを残していけるのかが問われることとなる。気が引き締まる思いであり、これを常に保ちつつ今期を全うしたい。



普及育成委員会 繁田 進

今期も継続して陸上競技の普及・発展と指導者の養成を2本柱として取り組んでいきたいと思っております。当委員会を抱える課題は多岐にわたりますが、2017JAAFビジョンをふまえ、2020年東京オリンピックのレガシーとして何を残すのか、という大局に立って取り組んで参ります。

これらの実現に向けては、下記に記す通り普及政策部、普及育成部、指導者育成部、ランニング普及部の4つの部門が中心となって実施致しますが、各課題の実現には他の委員会や各都道府県陸協等の連携が不可欠であり、関係各位と一致団結して取り組む所存でございます。

1) 普及政策部

昨季から継続して陸上競技の継続及び非継続に関する調査研究の実施や、日本版LTAD: Long-Term Athlete Developmentモデルの実施検討等を行います。

2) 普及育成部

昨季から継続してアスリート発掘育成プロジェクト(U13、U16)の実施や、かけっこ事業の全国展開のための指標・仕組み作りを検討します。

3) 指導者育成部

昨季から継続してジュニア・コーチ講習会の全国展開の実施や、日本体育協会の新指導者制度と連携を図りながら、ジュニアからトップ選手までの一貫指導システムの構築等を行います。

4) ランニング普及部

今後の有効なランニング環境の整備やランニング指導者養成制度実施の実現に向けて取り組みます。



施設用器具委員会 高木 良郎

新たに施設用器具委員会委員長を拝命いたしました。昭和55年より当委員会にお世話になり、検定員として35年目になります。この間幹事や副委員長のほか以前あった研究開発部長（平成11年）、検定・審査部副部長（平成13年）を経て、このたび当委員会の運営を任されることとなり、改めて身の引き締まる思いです。

当委員会は公認陸上競技場・公認長距離競走（歩）路の検定業務、指導を行うため、本部の委員・検定員の他に都道府県に1名の検定員（北海道は2名）、2名の技術役員（沖縄は3名）、そして各県1名の自転車計測員（コース計測員、検定員または技術役員が兼務）で構成している総勢151名の大きな組織です。

2020年のオリンピック・パラリンピックが近づき、新国立競技場の建設も進んできています。各地では競技場や長距離競走（歩）路の改修、整備やIAAF認証を取得するなど新たな動きがあります。海外に先んじた投てき可能な人工芝の基準づくりの検討も進んできております。本年3月には多くの方々のご協力、ご努力により第1種、第2種公認競技場の基本仕様に合致していない「B競技場」が解消され、基本仕様の適正化がなされました。また、競技場以外での競技会の規則を整備し、新たな陸上競技の魅力づくりの一つとなる取り組みがされました。このような中、IAAFとの密接な連携を図りつつ、国際競技会の開催でも問題のない施設の建設を目指すとともに、全国どこでも正確で公平でよりよい環境で競技会ができる施設が求められています。また、使用する用具の規格の適正な管理についての課題もあります。

これらの諸問題に対応できるように検定員、技術役員、自転車計測員のより一層の技術の向上をしていきたいと考えております。委員会での議論の活性化と充実を目的に3名の委員を迎え新たな体制としました。皆様のご支援ご協力をお願いします。



科学委員会 杉田 正明

科学委員長を拝命致しました杉田です。今年で6年目となります。どうぞよろしくお願い致します。2020年及びポスト2020を見据え、メンバーを35名に増員し、生理、バイオメカニクス、トレーニング、医学、栄養、心理、気象、情報など様々な分野の専門家によって委員会を構成し、これまでケアができていなかったとされる分野の支援活動にも力を入れる予定です。現在の取り組みとしては、競技会におけるバイオメカニクスデータを基にしたパフォーマンス分析とそのフィードバックや強化合宿及びNTC、JISS等を活用した研修合宿における測定や支援活動など、強化現場に密着し、個別的、実践的なデータ収集と即時フィードバックに重点を置いた活動を展開しています。3年前から各地区高体連合宿の研修で、蓄積された科学データ等の伝達講習会を実施し、

科学データの普及活動にも積極的に取り組んでいます。マラソン、競歩を中心とした暑さ対策としては、実際のレース及び夏場の東京での距離走練習時に測定を実施し、暑さに対する影響や負担度等を明らかにし、暑熱対策の具体的方策や望ましいコンディショニング方法確立のための取り組みを行っています。さらに、ジュニア選手の種目転向や発掘について、トランスファーマップ（種目転向の道しるべ）作成の作業に着手しており、ジュニアからシニアへの縦断的な科学的知見の蓄積を充実させる予定です。

本委員会の活動成果は、毎年、陸上協競技研究紀要などで公表していますので、日本陸連HPでぜひご覧下さい。今後も強化委員会をはじめ様々な関係の委員会と緊密な連携を図りながら戦略的かつ包括的な科学的支援活動をより一層、充実させていく予定です。本年度も科学委員会の諸活動につきましてご理解とご協力をいただけますようよろしくお願い申し上げます。



医事委員会 山澤 文裕

医事委員会は医務部とトレーナー部より構成され、日本全国から委員を選出しています。医師23名、管理栄養士1名、スポーツ免疫学者1名、トレーナー12名からなる大きなチームです。アスリートが安心してプレーできる競技ルール作りと、競技会医務、ドーピングコントロール、トレーナー活動、日本代表チームドクター業務およびアスリートに対する健康相談、健康診断、障害予防、スポーツ栄養指導などを中心とした医学サポートを行っています。

アスリートの障害予防は重要な課題で、発育期にあるアスリートのオーバーユースによる慢性障害を予防しなければなりません。2017年7月に実施したアンケート調査では、47陸協に医務部が設置され、医師が関与する陸協は34に増えてきました。すべての陸協に医師が関与した医務部の設置をお願いしてきたことの手ごたえを感じています。障害予防について、陸協医務部の先生方と協力体制を構築したいと考えています。

さて、いよいよ東京2020に向けてアスリートサポートを充実していきます。待ったなしの3年間です。2017ロンドン世界陸上のチームドクターにベテランと若手を起用し、事前の強化合宿を含めてメディカルサポートを行いながら、トップアスリートとのコミュニケーションを更に緊密にし、アスリートのコンディション維持を図ります。暑熱対策、ケガからの早期復帰は喫緊の課題でありますので、競歩およびマラソンチームに担当医事委員をつけることとしました。ヤル気満々の委員ばかりですので、ご期待いただきたいと思います。

委員長は国際陸連ヘルス&サイエンスコミッション委員として、世界的規模の様々な問題解決にかかわっています。日本陸連の立場だけでなく、国際的な立場からの発信が、日本陸上競技界全体の発展のためにますます重要である、と考えています。

第16回世界陸上競技選手権大会(2017 / ロンドン) 日本代表選手

【男子 34名】

種目	氏名	フリガナ	所属	
100m/200m	サニブラウン アブデルハキーム	サニブラウン アブデルハキーム	東京	東京陸協
100m	多田 修平	タダ シュウヘイ	大阪	関西学院大学
100m	ケンブリッジ 飛鳥	ケンブリッジ アスカ	東京	Nike
200m	飯塚 翔太	イヅカ ショウタ	静岡	ミズノ
4×100mR	桐生 祥秀	キリュウ ヨシヒデ	埼玉	東洋大学
4×100mR	藤光 謙司	フジミツ ケンジ	神奈川	ゼンリン
400m	北川 貴理	キタガワ タカマサ	福井	順天堂大学
4×400mR	佐藤拳太郎	サトウ ケンタロウ	埼玉	富士通
4×400mR	木村 和史	キムラ カズシ	香川	四電工
4×400mR	金丸 祐三	カネマル ユウゾウ	徳島	大塚製薬
4×400mR	堀井 浩介	ホレイ コウスケ	兵庫	住友電工
3000mSC	濃滝 大記	ツエタキ ヒロノリ	千葉	富士通
110mH	高山 峻野	タカヤマ シュンヤ	神奈川	ゼンリン
110mH	増野 元太	マスノ ゲンタ	群馬	ヤマダ電機
110mH	大室 秀樹	オオムロ ヒデキ	徳島	大塚製薬
400mH	安部 孝駿	アベ タカトシ	岡山	デサントTC
400mH	石田 裕介	イシダ ユウスケ	千葉	早稲田大学
400mH	鍛冶木 峻	カジキ リョウ	鳥取	城西大学
走高跳	衛藤 昂	エトウ タカシ	三重	味の素AGF
棒高跳	山本 聖途	ヤマモト セイト	愛知	トヨタ自動車
棒高跳	荻田 大樹	オギタ ヒロキ	香川	ミズノ
三段跳	山本 凌雅	ヤマモト リョウマ	長崎	順天堂大学
やり投	新井 涼平	アライ リョウヘイ	静岡	スズキ浜松AC
十種競技	中村 明彦	ナカムラ アキヒコ	静岡	スズキ浜松AC
十種競技	右代 啓祐	ウシロ ケイスケ	静岡	スズキ浜松AC
20kmW	高橋 英輝	タカハシ エイキ	千葉	富士通
20kmW	松永 大介	マツナガ ダイスケ	千葉	富士通
20kmW	藤澤 勇	フジサワ イサム	東京	ALSOK
50kmW	小林 快	コバヤシ カイ	東京	ビックカメラ
50kmW	荒井 広宙	アライ ヒロオキ	埼玉	自衛隊体育学校
50kmW	丸尾 知司	マルオ サトシ	愛知	愛知製鋼
マラソン	井上 大仁	イノウエ ヒロト	長崎	MHPS
マラソン	川内 優輝	カノウチ ユウキ	埼玉	埼玉県庁
マラソン	中本健太郎	ナカモト ケンタロウ	福岡	安川電機

【女子 13名】

種目	氏名	フリガナ	所属	
5000m	鍋島 莉奈	ナベシマ リナ	東京	日本郵政グループ
5000m/10000m	鈴木亜由子	スズキ アユコ	東京	日本郵政グループ
10000m	松田 瑞生	マツダ ミズキ	大阪	ダイハツ
10000m	上原 美幸	ウエハラ ミユキ	東京	第一生命グループ
100mH	木村 文子	キムラ アヤコ	広島	エディオン
100mH	柴村 仁美	シムラ ヒトミ	福島	東邦銀行
やり投	海老原有希	エビハラ ユキ	静岡	スズキ浜松AC
やり投	斉藤真理菜	サイトウ マリナ	茨城	国士館大学
やり投	宮下 梨沙	ミヤシタ リサ	大阪	大体大T.C
20kmW	岡田久美子	オカダ クミコ	東京	ビックカメラ
マラソン	安藤 友香	アンドウ ユカ	静岡	スズキ浜松AC
マラソン	重友 梨佐	シゲトモ リサ	岡山	天満屋
マラソン	清田 真央	キヨタ マオ	静岡	スズキ浜松AC

第4回日中韓3カ国交流陸上競技大会報告

強化委員会強化育成部 U20 コーディネーター 大橋 祐二

1. はじめに

第4回日中韓3カ国交流陸上大会は、2017年7月2日に中国・寧波で開催された。6月30日に成田から上海へ空路で移動し、上海から寧波まではバスで約3時間を要した。翌7月1日に前日練習、7月2日の18時から競技開始、7月3日の早朝から移動を始め午後に成田着と、選手には非常にタイトなスケジュールであった。一方で、大会運営は素晴らしく、真剣勝負でありながらも大会終了後のフェアウェルパーティーでは選手間の交流を深めるイベントが準備されており、特に初めて国際大会を経験する選手には貴重な経験になったことと思われる。

2. 現地の環境

中国・寧波は、緯度でみると九州よりも南に位置しており、非常に高温多湿な気候であった。競技は気温の下がり始めた18時から開始されたものの、それでも気温は優に30度を越えており、常に熱中症には注意しなければならない環境であった。

大会が行われたメインスタジアムのサーフェイスは非常に反発が小さく、日本国内の反発の大きな高速トラックに慣れている選手は対応に苦慮していた。また、トラック種目には常時向かい風となる難しいコンディションであった。これは、自己記録達成率にも影響しているように考えられる(表2)。

現地では日本チームに通訳として4名の中国人大学

生(大学で日本語を専攻している学生)がつき、ホテルでの生活から競技場でのトレーニングまで献身的にサポートしていただいた。

3. 成績

本大会の選手団は、同時期にアジア選手権(インド・ブバネーシュワル)が開催されることと2017年度はU20カテゴリーで国際大会が開催されないことを考慮し、アジア選手権に出場せず地区インカレおよび地区実業団で好成績を収めたU20カテゴリーの選手を中心に選出された。

日本は、国別対抗ポイント3位(男子3位、女子2位)であった。個人の成績をみると、男子800mの花村拓人選手(関西学院大学)、男子400mHの山本竜大選手(日本大学)、女子400mの岩田優奈選手(中央大学)の3名が優勝した。特に、高速トラックではない中で自己記録迫る走りをみせた山本選手と、前半から積極的なレースを展開し圧勝した岩田選手の強さは際立っていた。

本大会で自己記録を更新した選手は、男子三段跳びに出場した田坂裕輝選手(鹿児島大学)、自己タイを記録した選手は、諸田実咲選手(中央大学)であった。また、全選手の結果を自己記録に対する達成率でみると、全体 $97.1 \pm 2.5\%$ 、男子 $98.9 \pm 2.3\%$ 、女子 $96.0 \pm 2.5\%$ (記録なしは除外して算出)であった(表2)。

表1 第4回日中韓3カ国交流陸上競技大会 日本選手団役員一覧

No.	役職	氏名	所属
1	団長	麻場 一徳	山梨学院大学
2	男子短距離コーチ	豊田 裕浩	中央大学
3	女子短距離コーチ	吉田真希子	東邦銀行
4	ハードルコーチ	大橋 祐二	帝京平成大学
5	跳躍コーチ	森長 正樹	日本大学
6	投擲コーチ	等々力信弘	ミズノ株式会社
7	ドクター	塚原 由佳	早稲田大学
8	トレーナー	砂川 祐輝	株式会社レファ
9	トレーナー	矢嶋 友美	T.S Serve Trainer Team
10	渉外	平野 了	日本陸連事務局

4. 今後の課題

上述したように、本大会はU20カテゴリーから選手選考を行い、若手選手に国際大会を経験させることも狙いの一つであった。競技者として早い段階から海外での試合を経験し海外に苦手意識を持たないようにすることは、競技者として大成するためには必要不可欠なことである。このような戦略的な派遣は、将来への布石となりうることから、今後も継続して行うことが重要であろう。また、海外での試合を経験した選手には、日本国内での試合が世界的にみても非常に条件の整った環境で行われていることを理解してもらいたい。国際大会では予期せぬことが往々にして起こる。どんなトラブルにも動じず、今持っている力を十分に

発揮できる「タフさ」を身につけることも、今後国際大会で活躍するうえで必要となる。本大会に出場した選手には、この経験が次の活躍の場へのステップになることを切に願う。



表2 第4回日中韓3カ国交流陸上競技大会 日本選手団競技結果

No.	競技種目	氏名	所属	自己ベスト	達成率 (%)	日付	決勝
1	200m	染谷 佳大	中央大学	20.77	96.8	7/2	21.46 (-0.6) 4位
2	200m	山下 潤	筑波大学	20.59	96.8	7/2	21.27 (-0.6) 3位
3	4×400mR	鵜池 優至	日本大学	46.59	—	7/2	—
4	4×400mR	河内 光起	近畿大学	46.06	—	7/2	—
5	800m	瀬戸口大地	山梨学院大学	1:51.56	99.9	7/2	1:51.62 3位
6	800m	花村 拓人	関西学院大学	1:48.01	97.5	7/2	1:50.74 1位
7	400mH	高田 一就	法政大学	50.27	97.9	7/2	51.37 5位
8	400mH	山本 竜大	日本大学	49.92	99.5	7/2	50.18 1位
9	走高跳	藤田溪太郎	立命館大学	2.18	0.0	7/2	NM (記録なし)
10	走高跳	橋本 陸	日本大学	2.12	94.3	7/2	2.00 3位
11	三段跳	竹之内優汰	順天堂大学	16.04	97.7	7/2	15.67 (+1.0) 6位
12	三段跳	田坂 裕輝	鹿児島大学	15.48	102.1	7/2	15.80 (+1.4) 4位
13	砲丸投	幸長 慎一	四国大学	17.37	99.4	7/2	17.26 5位
14	砲丸投	風張鼓太郎	国土館大学	15.77	99.2	7/2	15.65 6位
	4×400mR	鵜池優至—河内光起—花村拓人—瀬戸口大地		—	—	7/2	3:09.26 2位
15	100m	島田 雪菜	北海道ハイテクAC	11.69	96.4	7/2	12.13 (-1.5) 4位
16	100m	壹岐いちこ	立命館大学	11.66	97.0	7/2	12.02 (-1.5) 3位
17	4×100mR	佐々木 梓	青山学院大学	11.74	—	7/2	—
18	4×100mR	齋藤 莉奈	山梨学院大学	12.04	—	7/2	—
19	400m	青木 りん	東邦銀行	53.44	95.7	7/2	55.82 2位
20	400m	岩田 優奈	中央大学	53.79	99.7	7/2	53.96 1位
21	100mH	田中 佑美	立命館大学	13.46	96.6	7/2	13.94 (+0.2) 3位
22	100mH	佐々木 天	筑波大学	13.69	96.5	7/2	14.19 (+0.2) 5位
23	棒高跳	諸田 実咲	中央大学	4.00	100.0	7/2	4.00 2位
24	棒高跳	安宅 伽織	日本体育大学	3.81	94.5	7/2	3.60 6位
25	走幅跳	山下 友佳	立命館大学	6.16	95.5	7/2	5.88 (+0.7) 5位
26	走幅跳	田中友紀乃	日本大学	6.02	91.5	7/2	5.51 (+0.1) 6位
27	砲丸投	尾山 和華	福岡大学	15.11	96.9	7/2	14.64 5位
28	砲丸投	高橋 由華	九州共立大学	14.47	92.3	7/2	13.36 6位
	4×100mR	島田雪菜—壹岐いちこ—齋藤莉奈—佐々木梓		—	—	7/2	45.43 2位

第22回アジア陸上競技選手権大会報告

強化委員会コーディネーター 遠藤俊典（青山学院大学）

1. 編成方針と競技目標

本大会は、「ワールドチャレンジ（WC）又はTop8カテゴリーを中心に第32回オリンピック競技大会（2020/東京）での活躍を期待する競技者に、国際経験の場を提供する」ことを編成方針として選手選考を行った。当初の予定から、急な日程および開催場所の変更があり、選考には苦慮したが、これまでは十分に派遣することができなかったWCカテゴリーの各種目については、ほぼフルエントリーすることができた。またTop8カテゴリーにおいても、この試合までに世界選手権の参加標準記録を突破できていない種目においては、記録突破あるいはエリアチャンピオンによる出場権の獲得を目指して派遣メンバーが選出された（表1・表2：男子22名、女子32名）。

以上の方針によって選出されたメンバーにおいて、試合前のミーティング時に山崎一彦監督（強化委員会ディレクター／順天堂大学）より示されたチーム全体としての競技目標は、「1. 陸上競技の本質の1つである記録よりも勝負にこだわって競技すること、2. アジア選手権における活躍によって、アジア選手権の質・価値を高めること、およびそのことが結果として陸上競技の質・価値を高めることを意識すること」であった。

2. 現地の環境

インド・プバネーシュワル（東海岸のオリッサ州の州都）のKalinga Stadiumで本大会は開催された。連日会場は満員で賑わい非常に良い試合の雰囲気であった。予想していた通りの高温多湿であったが、17:30からはじまる午後のプログラムの後半では日が沈み、気温も下がっていたため、比較的良好な気候条件であった。宿泊は、旧市街地のホテルが用意され、競技場へは

すべて警察の先導付バスでの移動となり、宿泊先からの外出も許可されていなかったため、移動および日常生活での安全面は強制的に確保されていた。前回のインド（プネー）でのアジア選手権時には、日本選手団の大半が、嘔吐・下痢等の症状に見舞われたことから、事前に医事委員会を中心に注意喚起がなされたこと、前回大会経験者からの情報などから、危機管理が徹底されていた。このことに加えて、現地での食事環境が良い意味で予想とは異なり「無難」であった。以上のことから、実際に遠征期間中には5名程度に下痢症状がみられたのみであった。

試合の運営に関しては、アジア諸国での開催といえは大会の運営体制がずさんであることが良く知られているが、エントリー人数による予選ラウンドの廃止等のタイムテーブル変更以外には、特段の大きな変更や急な日程変更などはなかった。競技場もサーフェスはアジア地区に良くあるチップ形状であったが、表面を張り替えたばかりの新しいものであった。サブトラックも大会に向けて新設されたもので、チームのテントも十分なスペースで用意され、気がかりだった水も大会スポンサーの水メーカーによる提供で不足はなかった。その他の大会運営も比較的スムーズで支障を感じることはなかった。唯一、今大会で使用されたスタートインフォメーションシステム（SIS）が世界的にも国内でもほとんど使用されていないタイプであったため、スタートの反応に関して神経質にならざるを得なかった。今後の国際大会にむけて、SISおよび不正スタートに対する理解と現場での対応に関しては、選手・コーチに情報共有が必要であると感じた。

3. 競技成績

メダル獲得数についてみると、金メダル0個、銀メダル5個、

表1 男子結果一覧

種目	氏名	自己ベスト	予選	準決勝	決勝			
100m	九鬼 巧	10.19	10.53(+0.5m/s) 6組2着	10.54(+1.4m/s) 2組4着				
200m	谷口耕太郎	20.45	21.27(+0.3m/s) 2組3着	21.01(-0.1m/s) 1組2着	21.01(+0.0m/s) 6位入賞			
800m	川元 奨	1:45.75	1:50.11 2組1着	—	1:52.62 9位			
800m	市野 泰地	1:48.62	1:52.36 3組5着	—				
1500m	井上 弘也	3:44.12	3:52.61 2組5着	—	3:51.16 6位入賞			
3000mSC	山口 浩勢	8:36.30	—	—	8:58.58 5位入賞			
110mH	高山 峻野	13.53	13.70(-0.4m/s) 2組2着	—	13.65(-0.6m/s) 4位入賞			
110mH	矢澤 航	13.47	13.83(+0.1m/s) 3組2着	—	14.07(-0.6m/s) 8位入賞			
400mH	小西 勇太	49.41	51.43 1組4着	—	51.72 8位入賞			
走高跳	高張 広海	2.28	2.10 1組	—	2.10 12位			
走高跳	中島 大輔	2.21	2.10 2組	—	2.10 13位			
棒高跳	江島 雅紀	5.61	—	—	5.65 PB 2位 銀メダル U20アジア新記録			
走幅跳	城山正太郎	8.01	7.59(-1.5m/s)	—	7.97(+1.5m/s) 3位銅メダル			
走幅跳	下野伸一郎	8.11	7.67(-0.6m/s)	—	7.76(+0.8m/s) 6位入賞			
砲丸投	中村 太地	18.55	—	—	18.46 5位入賞			
砲丸投	畑瀬 聡	18.78	—	—	17.36 10位			
円盤投	湯上 剛輝	57.55	—	—	56.66 9位			
円盤投	米沢茂友樹	57.83	—	—	52.45 14位			
ハンマー投	木村 友大	69.30	—	—	69.85 PB 4位入賞			
ハンマー投	柏村 亮太	70.81	—	—	68.02 6位入賞			
十種競技	川崎 和也	7679	100m	10.97 -0.8m/s(867)	400m	49.38(843)	PV	4.60(790)
			LJ	7.34 +1.0m/(896)	合計得点	3994	JT	61.94(767)
			SP	11.48(575)	110mH	15.97 0.0m/s(736)	1500m	4:37.72(695)
			HJ	2.01(813)	DT	36.92(602)	合計得点	3590
			総合得点				7584 2位 銀メダル	
十種競技	清水 剛士	7697	100m	11.09 -0.8m/s(841)	400m	50.33(799)	PV	NM(0)
			LJ	7.47 +0.7m/s(927)	合計得点	3917	JT	52.28(622)
			SP	12.20(619)	110mH	15.21 0.0m/s(824)	1500m	4:51.07(612)
			HJ	1.92(731)	DT	35.10(566)	合計得点	2624
			総合得点				6541 6位入賞	

銅メダル7個の計12個であり、残念ながら最大目標としていた金メダルは0におわった。特に、エントリーリストからみると、優勝を狙うことができると考えられていた数種目において、試合当日のパフォーマンス（記録）達成率が低くなってしまったことは今後の大きな課題である。それ以外の選手たちにおいても、今大会において自己記録の達成率は全体的に低いものであり、自己記録を更新した選手は、棒高跳でU20アジア記録を達成し、同記録で惜しくも金メダルを逃した江島選手、日本代表に初選出ながら自己ベストで4位入賞を果たしたハンマー投の木村選手の2名に留まった。

各種目の優勝者のパフォーマンスについてみると、種目格差はあるものの、本大会の編成方針にあるWC・Top8カテゴリーの種目におけるアジアの競技レベルが高いこと、アジア選手権での優勝が世界選手権の参加標準記録に匹敵していることが多かった。つまり、WC・Top8カテゴリーの種目においては、アジアエリアでの勝負に勝ち切ることができるような、試合での記録達成率、勝負強さを養成していくことが必要になると考え

られた。

4. 今後の課題

試合後の全体ミーティングにおいて、山崎監督から提示された課題は「現時点における自分の立ち位置を正確に把握すること」であった。タイムを基軸にした現在の自分の競技力が、日本、アジア、そして世界でどの位置にあり、それぞれが出場していく各種の格付けされた試合の中で、どのように力を発揮し、どのように勝負していくことができるかを熟慮することが必要不可欠であるのにも関わらず、実際には選手が現在世界ランク何位か、アジアで自身より記録が上の選手が何人いるのかも知らないなど、無頓着な選手が多いことを指摘していた。したがって、選手とコーチはそれらの情報を基にして目標までの地図を作成し、現在地からどのようなルートを描いてゴールを目指していくかを試行錯誤しながら真剣に考え、アジアでの戦い、そしてその先にある世界での戦いの準備を計画的・戦略的に推進していくことが必要である。そのような活動に対する代表チームとしてのサポートが今後はより一層求められていくと考えられた。

表2 女子結果一覧

種目	氏名	自己ベスト	予選	準決勝	決勝			
100m	前山 美優	11.51	11.92(-0.1m/s)1組4着	11.85(+0.2m/s)2組3着	11.98 (+1.0m/s)7位入賞			
100m	中村 水月	11.57	11.91(0.0m/s)2組2着	11.88(-0.3m/s)1組4着	DQ			
200m	市川 華菜	23.51	23.72(+1.3m/s)2組3着	—	23.68(-0.6m/s)6位入賞			
400m	青山 聖佳	52.85	55.09 1組4着	—	55.63 7位入賞			
800m	大森 郁香	2:03.96	2:07.13 (2組3着)	—	2:06.50 3位銅メダル			
800m	池崎 愛里	2:04.85	2:08.32 (3組3着)	—	2:08.62 5位入賞			
1500m	陣内 綾子	4:10.08	4:36.74 2組1着	—	4:19.90 3位 銅メダル			
1500m	田中 希実	4:15.43	4:25.07 1組2着	—	4:20.43 4位入賞			
5000m	小井戸 涼	15:33.61	—	—	16:11.15 5位入賞			
10000m	堀 優花	32:22.18	—	—	32:23.26 2位 銀メダル			
10000m	松田 瑞生	31:39.41	—	—	32:46.61 3位 銅メダル			
3000mSC	佐藤 奈々	10:04.28	—	—	10:18.11 3位 銅メダル			
100mH	木村 文子	13.03	13.55 (+0.8m/s)2組1着	—	13.30 (-0.1m/s)2位 銀メダル			
100mH	紫村 仁美	13.02	13.38 (+0.1m/s)1組2着	—	13.59 (-0.1m/s)5位入賞			
400mH	青木沙弥佳	55.94	59.39 2組4着	—	58.18 3位 銅メダル			
400mH	吉良 愛美	56.63	58.16 1組1着	—	58.52 5位入賞			
走高跳	秦 澄美鈴	1.82	—	—	1.75 11位			
走高跳	仲野 春花	1.81	—	—	1.75 6位入賞			
棒高跳	竜田 夏苗	4.15	—	—	4.00 4位入賞			
棒高跳	我孫子智美	4.40	—	—	NM			
走幅跳	清水 珠夏	6.48	—	—	6.21(+0.5m/s)4位入賞			
走幅跳	梶見咲智子	6.65	—	—	6.11(+0.5m/s)7位入賞			
三段跳	宮坂 楓	13.34	—	—	12.59 (+1.0m/s)8位入賞			
三段跳	宮坂 楓	13.52	—	—	13.32 (-0.7m/s)5位入賞			
砲丸投	太田 亜矢	16.47	—	—	15.45 3位 銅メダル			
砲丸投	郡 菜々佳	16.24	—	—	15.33 4位入賞			
円盤投	郡 菜々佳	54.02	—	—	49.55 8位入賞			
円盤投	中田恵莉子	53.21	—	—	48.98 9位			
ハンマー投	勝山 眸美	63.82	—	—	60.22 3位 銅メダル			
ハンマー投	渡邊 茜	66.79	—	—	59.39 4位入賞			
やり投	宮下 梨沙	60.86	—	—	54.72 5位入賞			
七種競技	ヘンピル恵	5907	100mH	13.62 -0.6m/s (1033)	200m	25.06 -0.5m/s(881)	JT	43.10(727)
			HJ	1.71 (867)	合計得点	3410	800m	2:16.02(878)
			SP	11.51 (629)	LJ	6.06 -0.5m/s (868)	合計得点	2473
							総合得点	5883 2位 銀メダル
七種競技	宇都宮絵莉	5668	100mH	14.24 -0.6m/s (945)	200m	25.33 -0.5m/s(857)	JT	37.21(614)
			HJ	1.65(795)	合計得点	3178	800m	2:11.41(944)
			SP	10.78(581)	LJ	6.00 +1.2m/s(850)	合計得点	2408
							総合得点	5586 5位入賞

4×100mR	出場オーダー	順位	記録
	前山美優-中村水月-青山聖佳-西尾香穂	6位入賞	45.40
4×400mR	出場オーダー	順位	記録
	青木沙弥佳-市川華菜-青山聖佳-吉良愛美	3位 銅メダル	3:37.74

第87回アジア陸上競技連盟(AAA)カウンシル会議、第22回アジア陸上競技連盟総会報告

会長 横川 浩

第22回アジア陸上競技選手権大会のインド・ブパネーシュワルでの開催に先立ち、2017年7月4日に第87回アジア陸上競技連盟(AAA)のカウンシル会議が開催され、国際陸上競技連盟(IAAF)のカウンシルメンバーとして参加した。カウンシル会議には、国際陸上競技連盟のセバスチャン・コー会長も出席し、その概要は以下の通りである。尚、7月5日には、AAA総会が行われ、下記に記したカウンシル会議の内容を中心に、AAA活動報告と審議が行われた。

1. コー IAAF 会長ご挨拶

陸上界は地域を越えてひとつのファミリーであるが、その中でも、アジアは最も重要な、可能性を秘めたエリアである。国際陸連の課題は、陸上の若者に対する求心力であるが、ターゲット層である16歳以下の60%はアジアに居住し、その経済成長に負けないスピードで、陸上を発展させなければならない。アジアはすでに多くの優秀な人材を国際陸連の活動に投じているが、それに加え、我々の活動に不可欠なスポンサー等でも大きな実績を残している。アジアの注目度、期待値は高く、今後も協調して活動を推進する必要がある。

2. 競技

ダーラン AAA 会長は、アジアの選手の競技レベルが向上している事を称賛した上で、トップレベルの選手がアジアの大会に出場しないという状況に対し、警鐘を鳴らした。アジアユース陸上競技選手権大会への参加回数、参加人数が安定している反面、スター不在のシニアの大会は継続しており、今後、国際陸連と協力して、その打開策を検討し、問題を解決しない限り、スポンサーシップの獲得、放映権のセールス、大会主催都市の立候補等への影響が危惧されるとした。

この発言に対し、コー IAAF 会長は、国際陸連としても、その解決策の一つとして、国際競技カレンダーの調整が急務であると考え、検討部会を立ち上げている事に言及した。将来的には、エリア大会への出場が、世界選手権等の参加条件になる事も一つの選択肢として考えられるとしたが、そのシステムを導入するには、全ての選手が、公平な条件で、競技会に参加できるカレンダー作りが必須であるとした。

3. 普及

アジアは各々の国によって環境や課題も違うが、アジア全体として、普及に対する方針を明確にし、その方策に対して、優先順位をつけた上で予算を適正に分配する必要がある。今年のアジアユース選手権大会には41カ国が参加し、盛況を見せたので、この流れを基に、ユース・ジュニア世代の活性化、タレント発掘を推進していく必要がある。

コー IAAF 会長は、U18世界選手権(世界ユース選手権)の開催中止に至った経緯について述べ、今後、エリアでのユースレベルの大会開催の重要性、約400万ドルの予算をエリア大会の開催等に割り当てていく考えがある事に言及した。ユースやジュニア世代に活躍した選手が、シニア世代に繋がっていない現状にもふれ、エリアと共同でこの状況を改善していく決意を述べた。

4. スポンサーシップ

▶アジアプレミアマラソンについては、インフロントチャイナとパートナーシップを結び、その運営にあたるが、すでに北京マラソン、ソウルマラソン、バイルートマラソンが参加を表明している。アジアに於ける、マラソンのレベルアップが期待されると同時に、インフロントとの契約によるAAAへの収入も見込まれる。

▶アジアで開催される大会の競技運営レベルを改善し、一定化するために、計測機器メーカーとの契約締結は急務である。スポンサーシップを得る事が出来れば、今後、アジアの大会を主催する都市の費用負担を軽減する事が出来、大会誘致を促進する事が出来る。

▶放映権のセールスは苦戦を強いられているが、積極的に展開し、大会価値の向上を目指す。

5. AAA 組織

▶前回のカウンシル会議で、事務局長(General Secretary)と財務役員(Treasurer)という2つの役職の選出方法について、議論が交わされ、その結果、事務局長はAAA事務局のスタッフとして指名で選出し、財務役員は総会選挙でカウンシルメンバーとして選出し、投票権を持つポストとして進める事で決定していた。しかし、この選出方法を実施した場合、財務役員の居住地によっては、事務局から離れ、充分な責務を果たせない可能性や、専門的な知識や経験を持たない人材が選出される可能性が指摘され、再度、審議が行われた。その結果、事務局長に加え、財務役員についてもカウンシルとして選出するのではなく、適正な人材を財務担当者として任命する事に変更する事になった。財務担当者がカウンシルメンバーでなくなる事に伴い、カウンシルメンバーの総数を変更しないために、現在のAAAカウンシルメンバー8名+事務局長兼財務役員1名+女性カウンシルメンバー2名という構成を、カウンシルメンバー8名+女性カウンシルメンバー3名に変更する事に決定し、翌日の総会に諮る事にした。尚、総会では、本提案が承認され、これに伴うAAA憲章の修正についても可決された。

6. 大会開催規約

AAA憲章の中に、大会開催に関する規則が6大会を対象に記載されているが、現状に則していない項目もあるので更新作業を行う。今回のアジア選手権大会より、開催地とAAAが取り交わす、大会開催条件に関する契約書が導入された。今後は、これをモデルにして、開催地の責任を明確にしていく。

7. アジア戦略(Continental Athletics Strategic Plan - CASP)の基本内容についての確認が行われ、翌日の総会ではその内容について詳細な説明と承認が行われた。

戦略は大きく3つに分かれており、第1番目の戦略は“One AAA”で、AAAに加盟する全ての国と地域が活発な活動を実施する事を目標に、AAAの結束と統一化を推進すること。第2番目は“Athletics for Life”で、ライフスタイルの一端としてウェルネス陸上競技が推進される事に焦点をおき、全ての年齢層をターゲットとして、陸上の広い普及を目指すこと。第3番目は、“Project Triple A (Advance Asian Athletics)”と呼ばれ、陸上に従事する専門家のニーズに応えるためのプロジェクトの構築で、コーチ養成などが主な事業となる。

8. AAA財務報告が行われ、カウンシル会議で精査された。

同報告書は、総会でも審議され、承認された。

9. AAA主催大会の実施報告と準備状況の報告が行われた。

実施報告には、アジアグランプリシリーズ(中国、中華台北)とアジアユース選手権(タイ)、準備状況報告には、アジア陸上競技選手権大会(インド)とアジアマラソン(中国)が含まれる。



2017年度 主要競技会日程

	主催・共催競技会			主要競技会			国際競技会		
	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所	期日	競技会名	場所
4月	16(日)	101 日本選手権50km競歩	石川	1(土)	★ 26 金栗記念選抜中・長距離	県民総合(熊本)	22(土)~23(日)	'17 ワールドリレーズ	ナッソー(バハマ)
	16(日)	19 長野マラソン	長野	22(土)~23(日)	★ 71 出雲陸上	浜山(島根)			
				22(土)~23(日)	★ GP1 TOKYO Combined Events	駒沢(東京)			
				23(日)	★ GP2 兵庫リレーカーニバル	ユニバー記念(兵庫)			
5月				23(日)	★ GP2 兵庫リレーカーニバル	ユニバー記念(兵庫)	24(月)	アジアグランプリ①	嘉興(中国)
				23(日)	★ 7 ぎふ清流ハーフマラソン	岐阜	27(木)	アジアグランプリ②	全華(中国)
				29(土・祝)	★ GP3 織田記念陸上	広域公園(広島)	30(日)	アジアグランプリ③	台北(チイニスタイペイ)
				3(水・祝)	★ GP4 静岡国際陸上	エコパ(静岡)			
6月				5(金・祝)	★ '17 水戸招待陸上	Kスタ水戸(茨城)	20(土)~23(火)	2 アジアユース陸上競技選手権	バンコク(タイ)
				6(土)	★ 28 コーデルンゲーム'inのべおか	延岡(宮崎)			
				7(日)	★ 4 木南道孝記念	ヤマスタジアム(長居)(大阪)			
				14(日)	★ '27 仙台国際ハーフマラソン	宮城			
7月				9(日)	★ 30 南部記念陸上	厚別(北海道)	2(日)	4 日中韓3カ国陸上	寧波(中国)
				22(土)	★ 57 実業団・学生対抗	平塚(神奈川県)	6(木)~9(日)	22 アジア陸上競技選手権	プバナージュル(インド)
							12(木)~16(日)	10 U18世界陸上競技選手権	ナイロビ(ケニア)
8月				4(日)	'17 布勢スプリント	コカコーラウエスト(鳥取)			
	10(土)~11(日)	63 全日本中学通信陸上	各地	4(日)	★ 14 田島記念陸上	維新百年記念(山口)			
	10(土)~11(日)	101 日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)	9(金)~11(日)	○ '17 日本学生個人	平塚(神奈川県)			
	23(金)~25(日)	33 U20日本選手権混成	長野市営(長野)	25(日)	★ 32 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道			
9月									
10月				8(金)~10(日)	○ 86 日本学生対校	福井(福井)			
				22(金)~24(日)	★ 65 全日本実業団	ヤマスタジアム(長居)(大阪) / ヤマスタジアム(長居)(大阪)	9(土)	デカネーション	アンジェ(フランス)
	6(金)~10(火)	72 国民体育大会	松山(愛媛)	9(月・祝)	○ 29 出雲全日本大学選抜駅伝	島根			
	20(金)~22(日)	33 U20日本選手権	瑞穂(愛知)	22(日)	★ 56 全日本50km競歩高島	山形			
11月	20(金)~22(日)	11 U18日本選手権	瑞穂(愛知)						
	27(金)~29(日)	101 日本選手権リレー	日産スタジアム(神奈川)	27(金)~29(日)	★ 38 国際・全日本マスターズ	紀三井寺(和歌山)			
	27(金)~29(日)	48 ジュニアオリンピック	日産スタジアム(神奈川)	29(日)	○ 35 全日本大学女子駅伝	宮城			
				5(日)	○ 49 全日本大学駅伝	愛知・三重			
12月				12(日)	★ 33 東日本女子駅伝	福島	26(日)	アジアマラソン選手権	東莞(中国)
				19(日)	★ 7 神戸マラソン	兵庫			
				26(日)	★ 37 全日本実業団女子駅伝	宮城			
				26(日)	★ 7 大阪マラソン	大阪			
2018年1月				10(日)	★ '17 長崎陸協競歩	県立総合(長崎)			
	3(日)	71 福岡国際マラソン	福岡	10(日)	★ 29 全日本びわ湖クロスカントリー	希望が丘(滋賀)			
	10(日)	20 小学生クロスカントリーリレー	万博記念公園(大阪)	10(日)	★ 48 防府読売マラソン	山口			
	17(日)	25 全国中学駅伝	希望が丘(滋賀)	17(日)	★ 36 山陽女子ロードレース	岡山			
2月	24(日)	68 29全国高校駅伝	京都	23(土・祝)	○ '17 全日本大学女子選抜駅伝	静岡			
				30(土)					
	14(日)	36 都道府県対抗女子駅伝	京都	1(月・祝)	★ 66 元旦競歩	東京			
	21(日)	23 都道府県対抗男子駅伝	広島	1(月・祝)	★ 62 全日本実業団駅伝	群馬			
3月	28(日)	37 大阪国際女子マラソン	大阪	28(日)	★ '18 大阪ハーフマラソン	大阪			
	3(土)~4(日)	'18 U20日本室内大阪	大阪城ホール(大阪)	4(日)	★ 67 別大マラソン	大分	調整中	8 アジア室内選手権	
	4(日)	3 全国中学生クロスカントリー	昭和の森(千葉)	4(日)	★ 72 香川丸亀国際ハーフマラソン	香川			
18(日)	101 日本選手権20km競歩	兵庫	11(日)	★ 58 唐津10マイル	佐賀				
24(土)	101 日本選手権クロスカントリー	海の中道海浜公園(福岡)	11(日)	★ 46 実業団ハーフマラソン	山口				
3月	25(日)	'18 東京マラソン	東京	18(日)	★ 52 青梅マラソン	東京	調整中	14 アジアクロスカントリー	
				18(日)	★ '18 熊本城マラソン	熊本			
				18(日)	★ '18 京都マラソン	京都			
	4(日)	73 びわ湖毎日マラソン	滋賀	4(日)	○ 21 日本学生ハーフマラソン	東京	2(金)~4(日)	'18 世界室内選手権	バーミンガム(イギリス)
				11(日)	'18 名古屋ウィメンズマラソン	愛知	18(日)	'18 A77陸上競技選手権20km競歩	能美(石川)
				18(日)	42 全日本競歩能美	石川	24(土)	23 世界ハーフマラソン選手権	パレンシア(スペイン)
				18(日)	○ 12 日本学生20km競歩	石川			
				18(日)	39 まつえレディースハーフマラソン	島根			
				18(日)	○ 21 日本学生女子ハーフマラソン	島根			

★=後援競技会、○=協力団体主要競技会

2017年度

JAAF公認ジュニアコーチ

兼 日本体育協会公認スポーツリーダー養成講習会

(文部科学省認定教員免許更新講習会)



開催要項

1. JAAF公認ジュニアコーチ講習会とは

ジュニアコーチ講習会は主にジュニアの指導者を対象に陸上競技の「走・跳・投」の基本技術の指導方法を習得することを目的に開催いたします。

※本講習会は日本体育協会公認スポーツ指導者制度に基づき実施いたします。
※本資格を取得するには「スポーツリーダー(共通科目)」「ジュニアコーチ(専門科目)」を受講し合格の上所定の手続きを行う必要があります。

2. 講習概要・料金

(1) 講習日程: 各会場3~4日間、1日8~10時間(理論・実技)

(2) 受講料: 共通科目・専門科目受講: 25,000円+決済手数料
共通科目免除者: 15,000円+決済手数料

免除適応コース承認校在校生: 10,000円+決済手数料

※一旦納入された受講料は、理由の如何を問わず返金しません。

※申込み後、都合により今年度中に受講できない場合、下記担当者宛にご連絡ください。なお、振込年を含み4年間は受講料が有効となります。

※別途、指定テキストの事前購入が必要となります。

3. 申込期間・申込方法

申込期間 6月1日(木)~各会場開催初日の約1ヶ月前

申込方法 日本陸上競技連盟HP「ジュニアコーチ講習会申込ページ」より申込
※WEBのみの受付となります。FAX、書類等での受付はできませんので予め承知ください。
※共通科目が免除の方も「ジュニアコーチ講習会申込ページ」よりお申込ください。
※お申込には「RUNNET(ランネット)」の登録が必要となります。

【共通科目が免除される条件】

1. すでに日本体育協会公認スポーツ指導者資格を保有している場合。
2. 「免除適応コース修了証明書」を保有している場合。
3. 「免除適応コース承認校」に在籍している場合。
4. その他関連資格を保有している場合。

詳細は日本体育協会HPをご確認ください。

【専門科目免除の方】

JAAF公認ジュニアコーチ専門科目修了証明書取得者(全国小学生陸上競技指導者中央研修会修了者、IAAF CECS Level1、Level2を取得した者)

【免除適応コース承認校在学学生の方】

(※卒業後に日本体育協会に申請すると共通科目が免除になる場合があります)

※免除適応コース承認校とは

日本体育協会が実施しているスポーツ指導者養成講習会と同じカリキュラムを承認校で履修することができ、講習・試験の一部またはすべてが免除されるシステムです。

【教員免許更新講習充当希望の方】

本講習会にお申込みの上、日本陸上競技連盟HP「ジュニアコーチ講習会申込ページ」に掲載の「申込書」を各会場開催日の1週間前までに提出ください。

◆ 開催会場・日程一覧

開催地	日程	会場	〆切
北海道	9月8日(金)、9月9日(土)、9月10日(日)	函館市千代台公園陸上競技場	7月31日(月)
岩手	9月30日(土)、10月1日(日)、10月7日(土)、10月8日(日)	岩手大学	8月18日(金)
宮城	1月13日(土)、1月14日(日)、1月27日(土)、1月28日(日)	宮城スタジアム	12月1日(金)
山形	9月17日(土)、9月18日(日)、12月2日(土)、12月3日(日)	山形県総合運動公園内施設	8月7日(月)
埼玉	10月21日(土)、10月22日(日)、10月28日(土)、10月29日(日)	上尾運動公園陸上競技場	9月11日(月)
東京1	8月18日(金)、8月19日(土)、8月20日(日)	味の素ナショナルトレーニングセンター	7月7日(金)
東京2	11月3日(金)、11月4日(土)、11月5日(日)	味の素ナショナルトレーニングセンター	9月22日(金)
山梨	2月10日(土)、2月11日(日)、2月12日(月)	小瀬スポーツ公園中銀スタジアム	1月5日(金)
新潟	11月4日(土)、11月5日(日)、12月2日(土)、12月3日(日)	新潟医療福祉大学	9月25日(月)
福井	11月25日(土)、11月26日(日)、12月2日(土)、12月3日(日)	福井運動公園陸上競技場	10月16日(月)
三重	8月21日(月)、8月22日(火)、8月23日(水)	皇学館大学	7月10日(月)
大阪	8月13日(日)、8月14日(月)、8月15日(火)	万博記念陸上競技場	7月3日(月)
広島	1月27日(土)、11月28日(日)、2月3日(土)、2月4日(日)	広島大学	12月18日(月)
山口	1月6日(土)、1月7日(日)、1月8日(月・祝)	維新百年記念公園陸上競技場	11月27日(月)
徳島	8月6日(日)、8月7日(月)、8月26日(土)、8月27日(日)	徳島市営陸上競技場	6月26日(月)
宮崎	11月25日(土)、11月26日(日)、12月2日(土)、12月3日(日)	KIRISHIMAヤマザクラ宮崎県総合運動公園 KIRISHIMAハイビスカス陸上競技場	10月16日(月)

*日程・会場は変更になる場合もございます。変更の場合は別途お知らせいたします。

*開始時刻は8時~9時、終了時刻は18時~20時を予定しております。(会場によって異なります。)

◆ 本件に関するお問合せ

公益財団法人日本陸上競技連盟 ジュニアコーチ担当

TEL 03-5321-6580

FAX 03-5321-6591

Eメール coach@jaaf.or.jp

2017数字で見る陸上競技Vol.2 都道府県公認審判員数

事務局

シリーズ「2017数字で見る陸上競技」の連載第2弾。

Vol.2では、各都道府県陸上競技協会における2016年度公認審判員の登録人数を掲載します。

2016年12月31日現在

NO	陸協名	S級		A級		B級		合計
		男	女	男	女	男	女	
1	北海道	172	13	264	36	795	308	1,588
2	青森	70	3	93	4	389	126	685
3	岩手	85	1	107	20	342	92	647
4	宮城	97	8	154	28	389	108	784
5	秋田	90	0	112	9	516	87	814
6	山形	93	0	150	14	538	132	927
7	福島	109	4	246	26	252	89	726
8	茨城	78	3	141	18	374	82	696
9	栃木	54	2	90	6	220	63	435
10	群馬	83	1	101	5	597	114	901
11	埼玉	69	1	342	31	367	68	878
12	千葉	96	4	219	19	738	154	1,230
13	東京	409	43	364	100	396	162	1,474
14	神奈川	221	1	259	24	997	224	1,726
15	山梨	86	3	128	28	315	72	632
16	新潟	66	0	160	8	757	139	1,130
17	富山	82	3	151	12	224	45	517
18	石川	78	4	119	7	354	91	653
19	福井	34	1	86	6	255	53	435
20	長野	103	0	125	6	507	113	854
21	静岡	193	7	249	37	564	145	1,195
22	愛知	115	5	136	11	628	188	1,083
23	岐阜	62	5	139	13	297	70	586
24	三重	39	0	102	9	310	94	554
25	滋賀	81	2	233	23	328	136	803
26	京都	110	5	155	15	728	291	1,304
27	大阪	162	7	322	66	790	265	1,612
28	兵庫	82	2	267	17	722	86	1,176
29	奈良	5	0	64	8	157	50	284
30	和歌山	19	0	137	12	243	78	489
31	鳥取	55	3	153	19	79	19	328
32	島根	75	4	135	23	443	80	760
33	岡山	61	3	232	50	253	94	693
34	広島	151	7	226	22	454	108	968
35	山口	99	2	152	22	324	54	653
36	徳島	16	2	80	9	146	70	323
37	香川	27	0	110	5	139	49	330
38	愛媛	43	2	141	11	261	121	579
39	高知	34	2	96	12	135	49	328
40	福岡	199	10	271	33	786	282	1,581
41	佐賀	52	1	93	12	104	38	300
42	長崎	41	3	97	8	318	50	517
43	熊本	74	7	199	31	208	60	579
44	大分	89	2	144	32	259	85	611
45	宮崎	37	6	95	13	349	73	573
46	鹿児島	67	2	172	20	445	122	828
47	沖縄	52	2	80	19	87	19	259
		4,215	186	7,691	959	18,879	5,098	37,028

大会観戦ガイド

2017.8.1時点

若きアスリートの熱き戦いが続きます！
全国小学生陸上は日産スタジアム、全日本中学陸上は
熊本県民総合運動公園陸上競技場、全国高校陸上選抜は
ヤンマーフィールド長居が激戦の地！
是非、会場で応援して下さい！

“日清食品カップ” 第33回全国小学生陸上競技交流大会

- ▼期日：8月19日（土）
開会式 08：20～
競技会 09：30～18：00
- ▼会場：神奈川県・日産スタジアム
神奈川県横浜市港北区小机町3300
- ▼アクセス：
JR新横浜駅から徒歩15分
地下鉄新横浜駅から徒歩12分
JR小机駅から徒歩7分
- ▼種目：
〈男子〉 8種目
6年生100m、5年生100m、80mハードル、走幅跳、
走高跳、ジャベリックボール投、4×100mリレー
〈女子〉 8種目
6年生100m、5年生100m、80mハードル、走幅跳、
走高跳、ジャベリックボール投、4×100mリレー
- ▼参加者：小学生5・6年生に該当する年齢で、各都道
府県での選考会を経て選ばれた代表選手22
名と指導者4名とする。
- ▼放映予定

- 8月26日（土）14：00～15：30 NHK Eテレ
- ▼問い合わせ先：
日本陸上競技連盟
TEL03-5321-6580 FAX03-5321-6591
日本陸連WEB内大会ページ
<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/804/>

平成29度全国中学校体育大会 第44回全日本中学校陸上競技選手権大会

- ▼期日：8月19日（土）～22日（火）
開会式 8月19日（土） 15：00～15：50
競技会 8月20日（日） 09：00～18：30
8月21日（月） 09：30～18：00
8月22日（火） 10：00～15：50
閉会式 8月22日（火） 16：30～16：50
- ▼会場：熊本県民総合運動公園陸上競技場
えがお健康スタジアム
熊本県熊本市東区平山町2776
- ▼アクセス：
〈飛行機〉熊本空港からタクシーで20分
〈バス〉熊本駅より路線バスに乗車「パークドーム前」
下車で約58分、光の森駅より全中専用シャトルバスに乗車「えがお健康スタジアム」下車
で約20分
- ▼種目：
〈男子〉 13種目
100m、200m、400m、800m、1500m、3000m、
110mハードル、4×100mリレー、走高跳、棒高跳、



昨年度の大会より（女子4×100mR決勝）



昨年度の大会より（女子100mH決勝）

走幅跳、砲丸投 (5.000kg)、四種競技 (110mハードル、砲丸投 (4.000kg)、走高跳、400m)

〈女子〉 10種目

100m、200m、800m、1500m、100mハードル、4×100mリレー、走高跳、走幅跳、砲丸投 (2.721kg)、四種競技 (100mハードル、走高跳、砲丸投 (2.721kg)、200m)

▼放映予定:

8月22日(火)14:20～16:00 NHK Eテレ(LIVE)

▼問い合わせ先:

(大会開催前)

平成29年度全国中学校体育大会 熊本県実行委員会
「第44回全日本中学校陸上競技選手権大会」係(熊本市立東町中学校内)

TEL:096-368-7754 FAX:096-368-9959

(大会開催中)8月19日(土)～22日(火)

[昼間]熊本県民総合運動公園陸上競技場

TEL:096-380-0783

[夜間]一般財団法人 火の国ハイッ

TEL:096-380-3305

大会ホームページ

<http://kumamotozentyu2017.com/>

第5回全国高等学校陸上競技選抜大会

▼期日:8月26日(土)～8月27日(日)

▼会場:大阪府・ヤンマーフィールド長居
大阪府大阪市東住吉区長居公園1-1

▼アクセス:

地下鉄御堂筋線「長居」、JR阪和線「長居」または「鶴ヶ丘」下車。

▼種目:

〈男子〉 6種目

300m、10000m、300mハードル、2000m障害物、3000m競歩、八種競技

〈女子〉 9種目

300m、5000m、300mハードル、2000m障害物、3000m競歩、棒高跳、三段跳、ハンマー投、七種競技

▼問い合わせ先:

日本陸上競技連盟

TEL03-5321-6580 FAX03-5321-6591

大会ホームページ

<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/809/>

第52回全国高等専門学校体育大会 陸上競技

▼期日:8月26日(土)～27日(日)

▼会場:松本平広域公園陸上競技場
松本氏神林5300

▼アクセス:

〈車〉

塩尻北ICから車で10分

〈バス〉

JR中央本線松本駅からバスで30分

▼種目:

〈男子〉 18種目

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、110mハードル、400mハードル、3000m障害物、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、走幅跳、三段跳、棒高跳、砲丸投 (6kg)、円盤投 (1.75kg)、やり投 (0.8kg)

〈女子〉 11種目

100m、200m、800m、3000m、100mハードル、4×100mリレー、走幅跳、走高跳、砲丸投 (4.0kg)、円盤投 (1.0kg)、やり投 (0.6kg)

▼問い合わせ先:

第52回全国高等専門学校体育大会陸上競技事務局
長野工業高等専門学校学生課内

TEL:026-295-7362



昨年度の大会より(女子ハンマー投優勝の松井美波)



JAAF TOYAMA 一般財団法人富山陸上競技協会

〒939-8234 富山市南中田368番地
富山県総合運動公園陸上競技場内
TEL.076-461-5917 FAX.076-461-5927
http://www.jaaf-toyama.net/

今年5月の理事会で役員改選が行われ、前田新専務理事を中心として、協会として新たにスタートを切りました。

5月に開催された県高校総体では4種目の県高校新記録が樹立されました。また、7月の県選手権大会では男子100mで22年振りに、西村顕志君(富山大学)が10'32の県新記録を樹立しました。トラックシーズンが始まってからとても良い雰囲気で大大会が開催されています。

今後の予定としては8月26(土)・27(日)に県陸上競技場で第61回北陸陸上選手権大会が開催されます。暑い中での開催となりますが、参加される各県の選手の皆様が最高のパフォーマンスを發揮し、好記録がでるように、協会として、全力で準備にあたっております。

現在は9月以降の中学校駅伝(9月)・小学生たすきリレー(10月)・高校駅伝(11月)・クラブ対抗駅伝(11月)と駅伝シーズンに入ってくるため、各チームともトラックレースと並行しながら、走り向上のための練習に取り組んでいます。

また、10月29日(日)には3回目となる2017富山マラソンが開催されます。今回から一部コースを変更し開催されますが、毎年多くのランナーからの好評を得ております。歴史と文化、そして立山連峰と富山湾を望みながら走るコースを是非ご覧頂きたいと思っております。

(文責: 競技部長 亀田二三夫)

JAAF FUKUI 一般財団法人福井陸上競技協会

〒918-8585 福井市三十八社町33-66 フクビ化学工業株式会社内
TEL.0776-38-0360 FAX.0776-38-0361
http://www.fukui-jaaf.com/

平成29年9月8日(金)～10日(日)福井運動公園陸上競技場にて『天皇賜盃第86回日本学生陸上競技対校選手権大会』が開催されます。福井陸上競技協会としては日本学生陸上競技連合・北信越学生陸上競技連盟と協力しながら学生アスリートが、人生のよき思い出として深く心に刻み込めるような大会となるよう、万全の準備をしています。

近年、日本陸上界は男子100mでいよいよ9秒台突入間近となり、ロンドンで世界陸上競技選手権大会が開催されるなど、世間から大変注目されることの多い競技となっています。福井という土地柄、トップアスリートが一斉に集い真剣に競技する姿を間近で触れあう機会など滅多になく、福井県民一同非常に楽しみにしてしています。

また、来年は国民体育大会が福井県で開催されます。その4年後には、福井県敦賀市まで北陸新幹線が開通する予定です。

よって、今大会をはじめとする様々なスポーツイベントの持つ意味が単なる陸上競技の大会としてではなく、福井県という土地柄、食、文化、人柄を全国の皆様に知っていただく絶好の機会としてとらえなくてはなりません。

各大会が終了した後、全国の皆様に福井県という場所をよき思い出として心に刻み込み、新幹線開通後はぜひもう一度訪れたいと思うような大会にしていきたいと思っております。皆様、よろしくお願ひいたします。

(文責: 専務理事 木原靖之)

JAAF ISHIKAWA 一般財団法人石川陸上競技協会

〒921-8833 野々市市藤平144-5
TEL.076-227-9410 FAX.076-227-9410
http://gold.jaic.org/jaic/member/ishikawa/index.htm

新しい年度を迎え、5月の定例理事会と6月の定例評議員会を経て2017・2018年度の新役員が決定いたしました。6年間会長として任務しておりました永江庸悦会長が退任され、宮地治副会長が会長として新しく就任し新体制でスタートいたしました。

先日行われた第101回日本陸上競技選手権大会において、男子走高跳で大田和宏君(金沢星稷大学)が2位、女子100m、200mで中村水月さん(大阪成蹊大学)が3位、女子走幅跳では吉岡美玲さん(星稷高校)が7位、また本県出身で山梨学院高校の小笠原朱里さんが女子5000mで実業団選手などを相手に3位入賞と活躍しました。中村さんはアジア陸上競技選手権大会に日本代表選手として参加したことは、本県としても喜ばしい限りであります。

(新役員紹介)

会長	宮地 治
筆頭副会長	温井 伸
副会長	大岩為一 松本 彰 中嶋敏一
専務理事	藤垣晴夫
副専務理事	吉田久俊 多井英一 澤田剛紀 池岸晃弘

(文責: 専務理事 藤垣晴夫)

JAAF NAGANO 一般財団法人長野陸上競技協会

〒381-0038 長野市東和田632 長野市営陸上競技場内
TEL.090-1867-7044 FAX.026-241-5155
http://nagano-rk.com/

長野陸協では、日本陸連のご指導の下、2012年から日本選手権混合競技大会の連続開催、昨年の全日本中学大会開催などをとおし、アスリートファーストの実践3つのフレンドリー(Athlete, Spectator, Referee)の尊重により、競技者、観客そして審判員が一体となり競技会を盛り上げ参加競技者に最高のパフォーマンスを發揮してもらうよう、競技運営に取り組んでおります。



長野県選手権4×400m決勝のレーンイン(各チームポーズを決めてスタート地点へジョギングで移動、写真は優勝した信州大学チーム)

6月の県小学生と7月の県選手権のリレー決勝では、レーンインをメインストレート中央からチーム毎にポーズを決め、それを移動カメラで撮影しスクリーンに表示する方式で行いました。この方法は、昨年松本市で開催された全日本中学校大会で初めて実施したものです。決勝進出の各チームは、それぞれ独自のパフォーマンスで会場を沸かせ、大会のフィナーレを飾るにふさわしい盛り上がりとなり、4×400mでは地元信州大学が23年ぶりに長野県記録を更新し優勝、市立長野高校もあと0.35秒で県高校記録となる大会新記録で2位に入るなど好記録に繋がりました。他競技に負けたくない今後とも新しい挑戦をしたいと思っております。

(文責: 代表理事・理事長 内山了治)

事務局からのお知らせ

◆◆日本陸上競技連盟マラソンメディスンセミナー 2017を開催します！◆◆

日本陸上競技連盟医事委員会では、安全なマラソン大会の運営に寄与することを目的に、さまざまな事態を想定したうえで、主催者側がどのような医療体制を構築すべきか、を中心としたマラソンメディスンセミナー 2017を開催します。

日時：2017年10月29日（日）13：00～17：00（予定）

会場：東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル11階 会議室

対象者：日本陸上競技連盟公認コースで開催されるマラソン大会の医事責任者と事務局

および、それ以外のマラソン大会、ロードレース大会の医事責任者と事務局

※詳細につきましては、本連盟ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/> にて。

◆◆日本陸連公式サイト&SNSに日本代表選手情報を掲載しております！◆◆

日本陸上競技連盟公式WEBサイト、公式SNSでは世界陸上競技選手権大会日本代表選手の結果や情報を随時更新し、ファンの皆さんにお届けいたします。アスリートを一緒に応援しましょう。

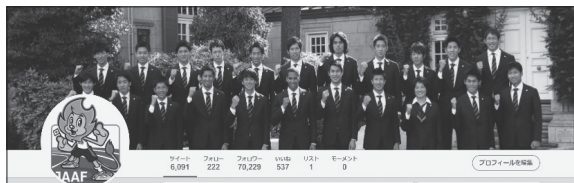
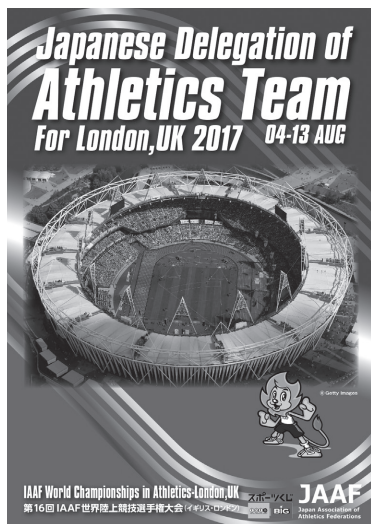
公式WEBサイト

代表選手プロフィール＆メッセージ、日本人選手全成績や最高記録＆最高順位など情報満載でお届けします

<http://www.jaaf.or.jp/>

公式SNSアカウント

Twitter (@jaaf_official)、Facebook (@JapanAthletics)、Instagram (jaaf_official) にて結果、競技写真、選手情報などを随時配信いたします。



陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩（陸連会長）
友永 義治（陸連副会長）
八木 雅夫（陸連副会長）
尾縣 貢（陸連専務理事）
伊東 浩司（陸連強化委員長）
風間 明（陸連事務局長）
牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
青木 和浩
宮田 宏
廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>